

その他の教育研究業における激突災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	13～14	同校よりバスケットボールを通して、児童の休み時間を利用して児童とのコミュニケーションを深めるよう指示があり、同校体育館でバスケットボールをし、ダンクシュートを行った際、着地でバランスを崩してしまい受傷した。	38	—
4	9～10	事業所構内苗畑管理棟裏のプレハブ製資材庫内で、ビニールハウス用の寒冷紗をロフト棚から取ろうとしたとき、片足が乗っていた梯子がずれてバランスを崩し、右胸部を金属製のバーステーに打ち負傷した。	36～99	50
5	11～12	発掘調査現場で外柵の設置を行っている時に、既設の「予定建築物」表示板の固定用控え杭に足を躓いて転倒し、手首を骨折した。	72～29	10
7	19～20	事務室にて他の職員と向かい合わせに座り、打合せを行っていた。打合せが終了したため、椅子を90度回転させ席に戻ろうとしたところ、被災者が自席のスチール製机の角に右膝を強打し、半月板を損傷した。	38～49	30
7	22～23	テニスのレッスン中に生徒とゲームをしていて、ジャンプして着地したあと、右足ふくらはぎに痛みを感じた。	43～49	30
7	10～11	本校3号館前にある藤棚の樹木を、学校業務専門職（被災者）が2台の脚立で足場（約1.5m）を作り、その上で剪定していたとき、ハチの大群が襲ってきた。ハチに手を刺され、驚いて足場から飛び降りた際に踵を痛めた。ハチ退治スプレーを脚立の下に用意していたが間に合わなかった。診察の結果、右踵骨折の診断であった。	66～299	100
	16	ジムにて会員とスパークリングをしていたとき、相手の右膝と被災者の左膝が強く当		1～

7	～ 17	たった。その際、相手の体重が重いこともあり、後十字靭帯を痛めた。	52	9
7	10 ～ 11	園児がFRP製のプールに入っていたとき、滑ってバランスを崩し倒れそうになったので、助けようと手を伸ばしたときに、自分もバランスを崩してプールの枠に脇が当たり、肋骨辺りを強打した。	59	30 ～ 49
9	11 ～ 12	教室で休み時間に作業が遅れていた生徒に対し個別に指導を行っていた。指導終了後、後方を向きながら、生徒といくつか口頭で確認していたところ、通路に置かれていた荷物（生徒の通学用バッグ等）に気が付かなかった。荷物につまずき転倒し、骨折した。	57	100 ～ 299
9	14 ～ 15	地表から深さ2m、400㎡掘り下げた発掘調査現場で土砂搬出用ベルトコンベアを作業員10名で持ち上げ移動中に、地面の5cmの段差につまずいてバランスを崩し、かばい手の右手首をベルトコンベアに当て、打撲骨折した。	69	10 ～ 29
10	10 ～ 11	校内の剪定作業中に振り向いたとき、木の枝に右肩付近を激しく打ち付けてしまい、打撲状態になった。その時は痛みだけで2週間程度我慢していたが、その後腕が上がらなくなり、病院で診察を受けた結果、3～4週間の安静が必要と診断された。	63	50 ～ 99
11	17 ～ 18	事業所2階の作業場の教材ピックアップ1エリアでダンボールに貼付されているラベルのバーコードをバーコードリーダーで読み込ませようと振り向いた時に、フラップの角で左眼を打った。当時は眼球の痛みが続いたものの、出血や充血等の異常がなかったことで定時に退社したが、数日後に視力の低下に気が付き、後日に近隣の眼科を受診したところ眼底出血していることが発覚し、治療のための設備が整った病院を紹介され、受診した。	46	30 ～ 49

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html